

(行方市) なめがた市民 100 人委員会「第 2 回委員会」議事メモ

分科会	第 5 分科会（情報発信で日本一プロジェクト）
コーディネーター	前田 真（清水町企画課長）
アドバイザー	浅岡 隆裕（立正大学文学部 准教授）
説明担当者（自治体）	企画政策課 1 名
日時	2020 年 11 月 8 日（日） 14 時から 15 時 25 分
場所	行方麻生公民館 3 階「多目的室」
その他	参加者数 10 名 欠席者数 6 名

趣旨・概要

第 2 回は、総合戦略「情報発信で日本一プロジェクト」の基本目標『全市民が情報発信源となり情報発信日本一を目指す』ために行っている施策「情報発信の推進」を切り口に、以下、3つのポイントについて話し合いました。

- ① 行方市の情報発信の推進
- ② 命に関わる情報を発信する「なめテレ」
- ③ 「なめテレ」をどうしたら面白くできるか

分科会の最後には「改善提案シート」を記入し、「情報発信の推進」していくにあたっての課題と、課題に対して「市民は何ができるのか」「地域では何ができるのか」「行政は何ができるのか」を考えた。

総括

分科会 会長総括

- 今日は防災無線と「なめテレ」について話した。なめテレについて、皆さんが思っていることと同じだと思うが、『おもしろくない』『何やっているのかわからない』『何の情報を出しているのかわからない』などの文句をさんざん言った。ただ、文句があるということは、その分だけ希望がたくさんあるということだと思う。『もっとこういうのを放映してほしい』などの要望も話し合った。これからは、今の時代にあった、その先の時代にあった「なめテレ」の形を見つけていこうという話をしました。

コーディネーター総括

- 第 5 班は盛り上がった！大きく 2 つの話をした。1 つ目は、命に関わる部分について情報発信がしっかりとできているのかという防災の話。防災に関しては皆さん誤解されていることもあった。防災無線が聞きにくいという話はあったが、もし災害があった時に防災無線が聞こえなくても、光回線を使った「なめテレ」を見れば防災情報がわかるということを知らない市民がたくさんいることに驚いた。「なめテレ」の使い道を行政からも PR したほうがいいんじゃないかという気づきがあった。
- 2 つ目は、「なめテレ」のコンテンツや内容について話し合った。ほとんどが面白くないな～という話だった。内容について色々あったが、私が話を聞いていて思ったのが、みなさん行方のことが好きなんだなということ。情報発信日本一を言っているだけあり、伝えたいことが山ほどある。しかし、どうすればいいのかわからないというイライラが募っての、文句の言い合いだった。
- そこで浅岡先生から「この会議で大事なことは、行政から市民に伝わる情報だけではなく、市民側からいかに良い情報を対外的に発信することだよ。」という話をしてもらった。次回以降、なめテレは第 5 班の力によって、劇的に面白くなるはずですよ。

アドバイザー総括（浅岡先生）

- 市民の皆さんが情報発信について、いろいろと不満を持っていたことがわかった。それをどうプラスに変えていくのが大事。市外に向けてのPRも大切だが、市民に市の良さや市に誇りを持ってもらうためにはどうするかを議論することも大切。市のことを議論して、市を良くしていくためにどうするか、これもまさにシティープロモーションの活動である。市が何かやってくれるではなく、市のために何かやろうと一肌脱ぐことも大事。それをもとに、市がさらにバージョンアップしていければと思う。

協議の流れ

委員と自治体職員とコーディネーターのやり取りを時系列にそって、ざっくりと記録する。

1 情報発信の推進について

コ：総合戦略を見ると、情報発信日本一を目指すために、情報産業の振興、情報発信の推進に取り組むことが書かれている。まずは情報発信の推進について皆さんの話を聞きたい。

委員：行方市の情報発信は置いてあるだけというイメージで、語りかけてこない。情報発信で日本一を目指すのであれば、もっとぐいぐいといかないといけないのではないかな。「なめテレ」もこの会議に参加するまで、知らなかった。市の広報もちらっと見る程度。私は26歳だが、同年代はテレビをあまり見ないと思う。テレビを見る層にアプローチするのか、もう少し若い世代なら違うアプローチがあると思う。

委員：ここ5年間、「なめテレさん」もそうだが、知っていてやっと情報にたどりつく。「なめテレ」は県内でも広まってない。日立方面とかは進んでいるので、日本一目指す前に県で有名になることが先かなと思う。

委員：合併して15周年すぎたが、まだまだ旧町意識が強い。この地域は正直のんびりで、そんなに不便さを感じない。自分から行動しようという意識は足りないのかもしれない。なめテレも地域によって映らないところがある。

委員：何が一番儲かるか。行方の畑は昔タバコ畑だった。タバコがだめになって「何をしよう？」となった。サツマイモと決めてみんなで協力して、長い時間かけて今がある。情報発信も長い時間をかけて、みんなで協力していかないといけないかな。

委員：情報発信をするのはどこからか。まずは市からだと思う。市には、休校情報などいろいろな家庭に必要な情報がある。そのために、「なめテレ」があったかもしれない。ただ、パソコンやスマホなどそれができない世代もいる。どこに、どんな発信するのかを考えないといけない。市のために、個人個人で何ができるのかはそういうことを考えてからかと思う。

委員：「なめテレ」は、うちの場合は、電気屋さんをお願いして見られるようになった。歌番組に出たことがあって、知り合いから電話がきたことがある。自分で見たいと動かないと見られない。若い人はテレビの話しても「私は見てません」と言われる。サツマイモで言うと、日テレの番組で麻生出身のタレントが出てたが、お店が取り上げられていて、放送後は人がいっぱいになっていた。

委）：委員、コ）：コーディネーター、ア）：アドバイザー、市）：説明担当者

委員：「なめテレ」は、民放のテレビが面白くないときに、ちょっと見る。何が足りないのかはわからない。少し前までヤマユリの会があった。その時に行方の特産物を東京に持って行って、販売・宣伝をやっていた。持って行ったサツマイモなどの商品は全部売れた。積極的にやればできるのかなと思う。

委員：防災無線としての「なめテレ」ということで、他の地域ではやってないことを頑張っているなど。防災無線は全く内容がわからない現状がある。「なめテレ」は半年ぐらい前に届いた。議会が聴けるということで楽しみにしていたが、実際に視聴ができるようになるにはもう少しかな。「なめテレ」はもう少し中身の方を変えていけばね。行方といったらサツマイモなので、何かピンポイントで攻めて、行方を PR していく。時間がかかるけど、時間かけても発信していくのが手かな。

委員：「なめテレ」を見ても、あんまりおもしろくない。子育て広場の情報とかほしい。ネットで検索するけど更新されないことがある、11月空き状況も検索かけたが10月までで止まっていた。ツイッターも登録しているけど、欲しい情報が入ってこない。テレビやるならもっと面白くて見たくなるものがない。私は行方市主催の婚活をきっかけに結婚した。そういう情報があってもよい。

委員：「なめテレ」やっとみられるようになった。見なくてもいいテレビ。同じことの繰り返しで、今は運動会や音楽の発表会を朝、昼、夜で同じものを回している。それが1週間で終わるのではなく、1か月くらい同じのをやっているイメージがある。もう少し工夫があるのかな。防災無線も聞こえづらいので、市役所に「何があったの？」と連絡するので二度手間。良いことしてるんだけど、もったいなさもある。

2 命にかかわる情報を発信する手段としての「なめテレ」

コ：「なめテレ」で、もともと行方市がやろうとしていたのは、防災情報を発信するときに、SNS があったり広報があったり、どれを取ってみても常に短し、嚮に長しになるので、ではテレビやインターネットを使って配信出来たらということだったと思う。だから防災情報が一番。ただ、それだけを流すわけにはいけないので、二次的に防災情報は必須として、行方の面白い話、自慢できる話をたくさん流してもらったほうがいいということになったと思う。

市の担当者として、これまでの話を聞き、率直にどう思ったのか、お願いします。そうはいつでも大変なんだよや、アイデアでもいい、是非、発言をお願いします。

市：ご意見ありがとうございます。光ファイバーを使っただけの防災対応型エリア放送は、全国で初めての取り組み。防災行政無線が聞こえないという話があったので、「なめテレ」にも防災無線情報が流れるようにしている。

コンテンツについては、充実を検討しなければいけないが、5年前に策定した情報発信日本一というのは『市役所からだけでなく、市民の皆さんに発信していただく数が日本一を目指そう』というのが主眼だった。

テレビが見えないという状況は、発信する基地数を増やすなど総務省と現在交渉しているところ。早期に全世帯を視聴できるようにした上で、議会中継を生で見ただけなどの市政参画や、光ファイバーを使っただけの遠隔医療も検討している。皆さんからの意見を踏まえて、いただいた課題を解決していきたい。

コ：光回線を通して、行方市が「たくさん情報を流せる環境」を整えているというのは皆さん賛成ですね。でも、お金をかけるのであればもっといいものにしたいという話。役所は良かれと思ってやっているけど、住民はそれだけでは満足しない。これから

どうしたらいいのかということをおみんなで考えていきましょう。一番大事なのは命に関わる情報・災害情報ということはわかった。

防災無線が聞こえづらい時に「なめテレ」を見れば、防災無線の内容を見られることは、皆さん知ってましたか？（知らない人多数）

委員：ある地域では、各家庭に拡声器を置いている。見ることは、何かしていると無理だが、音なら聞ける。それを併用してやったらどうか。

コ：清水町は防災無線機を一家に一台配布した。清水は約 1 万人の町だが、お金は約 2 億かった。行方市だと 4 億以上かかるのではないか。それは妥当な選択なのかは考えないといけないが、たぶんやることは難しいと思う。

市：防災無線の全戸配布とエリア放送は、コスト比較をした。また、事前のアンケートで防災無線も急に音になるとびっくりするので、電源を抜いてしまっているというケースも聞いた。なので、総合的に判断した結果、個別受信機ではなく、エリア放送を選択したという経過がある。

コ：残念なのは、「なめテレ」で防災無線の情報が見られることがわかって無い人が多い。

委員：防災無線の情報が「なめテレ」に出るまでのタイムラグはどれくらい？

市：防災無線の情報は、エリアメールが発信されると同時に出る。市からのものは数秒。正し、火災など市以外の場所からでるものは少し遅れる。ただ遅くとも 2 分程度のラグ。

委員：「なめテレ」を知ってもらうための情報発信が必要があるということですね。

コ：この場に参加している人たちですら、テレビと防災無線の関係を知らない人がほとんど。「なめテレ」は防災情報に関してとても重要な役割を果たしている。防災の情報を「なめテレ」以外に、住民に伝える手段はどのくらいある？

市：HP、ツイッター、FB、防災無線などで発信している。

コ：昔は 9 割テレビ見ていたかもしれないが、今は見ていない人が多くなっている。違うアプローチが必要になってきているのではないか、例えば YouTube を開設するなど、そういう時代に来ているかもしれない。

3 「なめテレ」をどうしたら面白くできるか

コ：「なめテレ」の防災の部分ではないところ、どうしたら面白くできるか。皆さんが得意なところだと思う。意見をもっと市に言っていきましょう。

委員：タレントを呼ぶなどは現実的に無理。自分たちの近い情報が開示されているかどうか大切。行方は誰ちゃん、誰ちゃん繋がりが強い。それを考えるとやっぱり市民が出ている番組が良いのではないか。運動会をずっと流しても、参加している子ども親しか見ていない。

例えば、地元のお店、イベントごとを紹介はどうか。なめテレでも企画はやっていて、お寺にもダンススタジオにも来てもらった。しかし、そこだけでは足りない。「どこどこになにを売っています」がわかったほうがいい。代表する水菜、芋など

委）：委員、コ）：コーディネーター、ア）：アドバイザー、市）：説明担当者

有名なものはたくさんあるのに、誰がどこで出しているという情報はあんまり伝わってこない。そこが一番かなと思う。

委員：以前「なめテレ」を見たら、お菓子屋さんの特集だった。そういう形で、やるのがいいなと見ていた。農家でも良いし。

委員：運動会に孫が出ていたが、コロナの影響もあってか短く、1 時間くらいに編集されていた。運動会も子どもたちのアップとかではなく、「走っている」映像をただ映しているだけなので、見てても面白くない。

委員：最近の若い人は TikTok（ティックトック）、YouTube で育っているので、短時間でもしろ、おかしいかを見る。ダンスもそうだが、最初の 30 秒がつまらなかったら見ない。最初の 15 秒、25 秒が大事。

委員：自分で何か作業をしながら見るという見方もある。ゲームの実況中継など。いろいろな見せ方があるので、どんな人に何を見せたいのかを考える必要がある。

委員：だらだら見られるのは特定の趣味がある人。市民の目線で見ると、特定ではなくて、全体が見たい情報を多めに流す必要はないか。

委員：見る時間帯も大切。お年寄りだったら、日中。夕方は子どもたちが見そうなものを凝縮したりなど。

委員：行政が流すものは限界があるのかもしれない。民放だと、朝は時代劇、お昼ショッピング。

コ：浅岡先生、今までの皆さんの話を聞いて、感じることはありますか。

ア：ほかの自治体でも同じような問題を抱えていることは多い。重要なのは、行政だけに頼るのではなくて、私たち市民に何ができるのか、民間の立場では何ができるのかを言っていかなければならない。そうしたことを考えるのが今回の場ではないか。

コ：面白くないという話はたくさん出たが、では、自分たちで何ができるのか。そんな話が今後していきたい。

委員：まず、「なめテレ」を知らない人が多い。行政側で全戸を回って、映るか、映らないのかのセッティングをする必要はないか。ただ、それを行政側で全部やるのではなくて、市民協力員とみたいな、普及員制度を作って、市民も協力しようとか考えられる。

委員：回覧板に入れるだけでも違うかもしれない。一枚、設定の方法入れるだけでも違う。人目につくところに「なめテレ」についてお知らせがあることが大事。行政情報の広告を載せているバスもないことはない。

委員：行方広報は見るから、そこに載せるのも良い。

行方の情報発信のイメージ

自分達に近い情報... 知っている人から出る 養猪・ターゲット
わかりやすく ← 地域のお店・イベント紹介、農業情報
なのでテレビ視聴解消はするんだ
→ 自分で動かすわけ
市民側からの発信
日本一とまでは言えないが、
格差情報は
時間帯

語りかけてるものではないー 発信力はそれほど強くない
① テレビはおおみさん → 違うアプローチが必要 つかみが大事
日本一どこか果内でも下位? ... 情報にたどり着かない
旧町を引き継いでいる
特に不便さを感じていないー 自分から行動を起こすおれに至るまで
「アツシも日本」... 何十年もかかっている。みんな協力。めづかしい
情報は必要。なので未視聴。パソコン、スマホ
防災無線 → 内容に工夫必要
昔は聞けるが、内容は不明
なので必要性
防災情報
HP、ツイッター
協力員制度
回覧板、人目につくところ
TTを広報に

国の補助金、7割がエリアカバー、TVでL字放送
・光回線利用
〈データ受信〉
〈お知らせメール〉



委) : 委員、コ) : コーディネーター、ア) : アドバイザー、市) : 説明担当者